



人材の可視化について

(サービス名 : VisuMe)

2026年2月9日

一般財団法人 日本サイバーセキュリティ人材キャリア支援協会（JTAC財団）

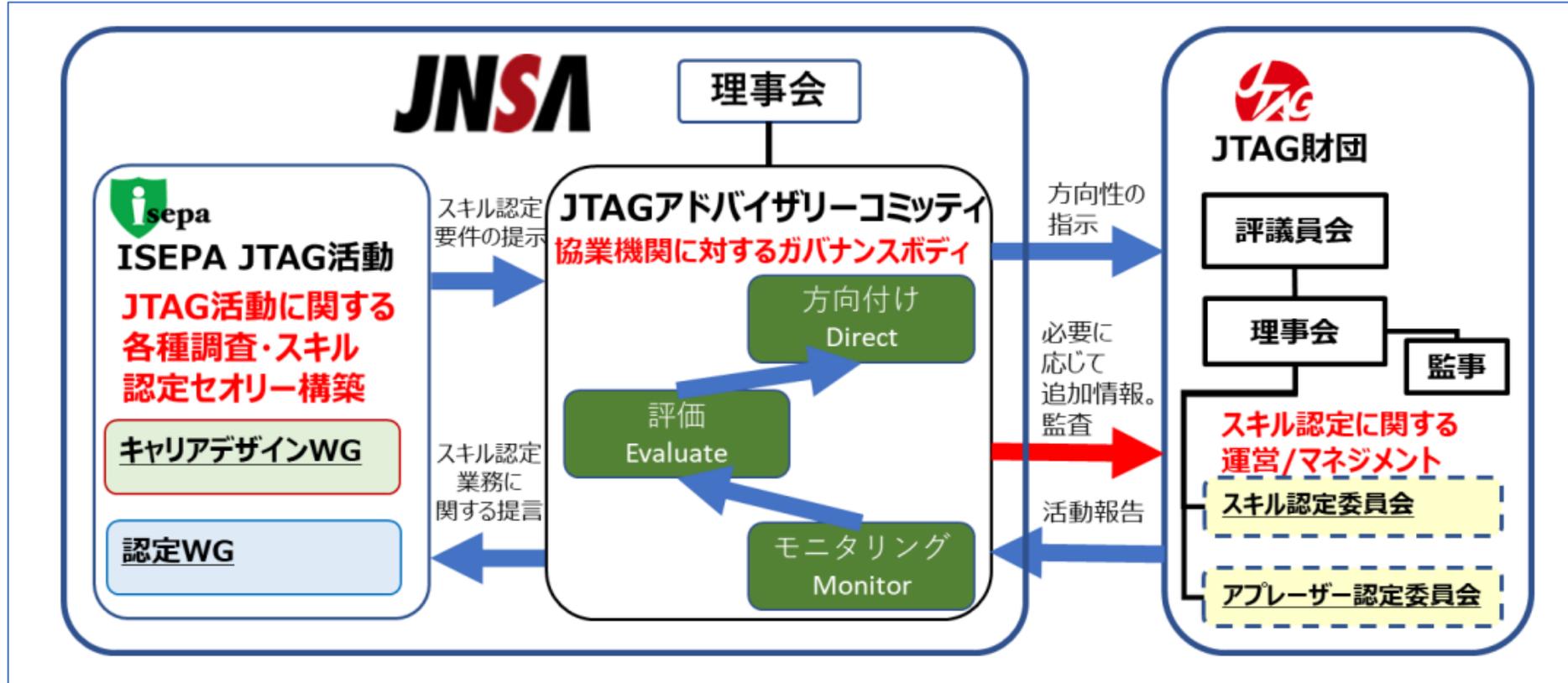
大槻 晃助（事業部長）

高崎 庸一（事務局長）

JTAG財団とは (<https://www.j-tag.or.jp/>)

JTAG活動は、NPO法人日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）配下の、情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）内ワーキンググループとして2017年からスタート。その活動の中で、セキュリティ人材の見える化や認定制度を事業として開始するために、**2020年2月に、一般財団法人 日本サイバーセキュリティ人材キャリア支援協会（略称：JTAG財団, ジェイタッグ）**を設立しました。

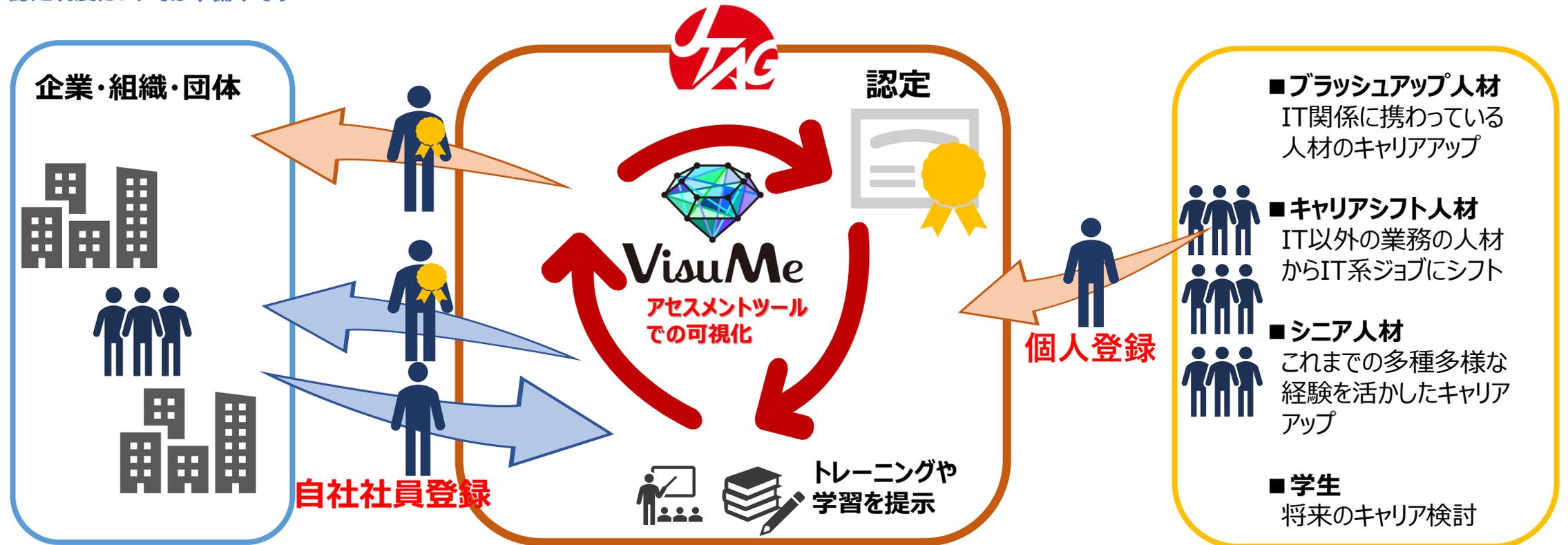
JNSAとJTAG財団は、セキュリティ人材不足の解消、柔軟で多様な働き方を広げることを目指して活動しています。セキュリティに関わるあらゆる人材のスキルを精度高く可視化し、その実力を客観的に認定することで、効率的な人材育成や必要な業務への適切な配置を実現します。その結果として、組織内外で人材が円滑に循環する良い流れをが作り出せることを目指して両者は協力して推進しています。



出典：JNSAプレスリリース（2021年1月）
「サイバーセキュリティ人材の流動化に関する協業について-成長戦略を担うサイバーセキュリティ人材の強化・流動化に向けて」
<https://www.jnsa.org/press/2020/20210114.pdf>

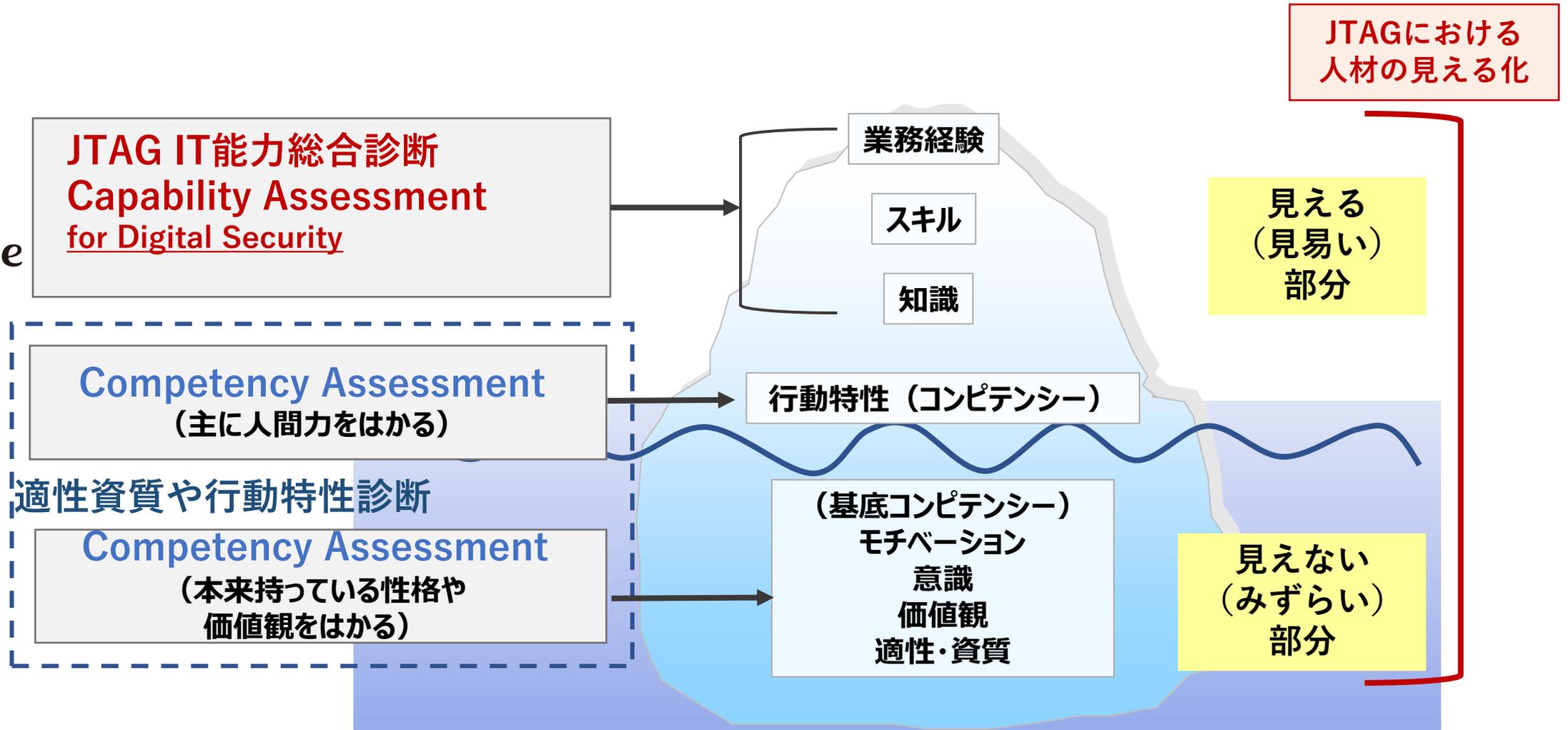
セキュリティに関係するあらゆる人材に対して精度の高い「力」の見える化を実現し**実力値を認定** (※1) する。これにより、効果的で効率的な育成と、必要とされるセキュリティ業務への適材適所がなされることで、社内外における良循環の人材流動化を促進していく。

※1) 認定制度については準備中です



※流動化のポイントは、企業の〈外⇒内〉だけではない。企業内〈内⇒内〉においても重要。スキル可視化することでセキュリティ関連業務で活躍できそうな人材の発掘や、ジョブチェンジ時の判断材料、さらにはセキュリティ関連業務のキャリアパス策定に参考にできる。

JTAGでの人材見える化の「範囲」は？



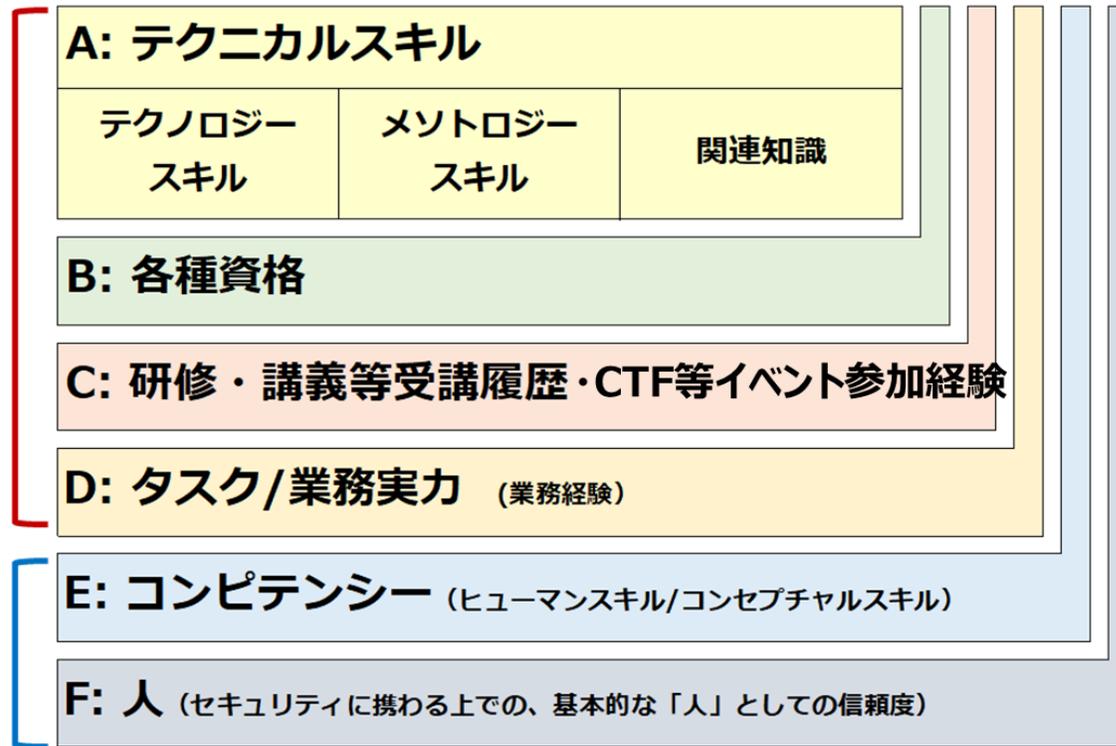
(C) ネクストエデュケーションシンク社のモデルより

「みえる化(可視化)」の指標について

能力診断  VisuMe
 Capability Assessment
 for Digital Security

↑ ↓
 傾向分析や相関分析などを提供予定

適性資質・行動特性診断
 Competency Assessment



<Capability Assessment>

● 診断時の主たる入力項目は、

- ①「業務経験年数」
- ②「保有資格」
- ③「研修講義等受講履歴、イベント経験 (主にCTF等)」

それにより自動算出された結果が導けます。

● VisuMeスコア算出の基本的な考え方

主たる業務や職務や役割、主業務ではないが役割として与えられたことがあるもの、また、自分の趣味や自己啓発活動、業界団体活動やボランティア活動等々、あらゆる経験において、それぞれいろいろな知識やスキル、ノウハウなどが培われている(はず)、という前提に立ってます。

※そのことを経験したことに対して、培われるであろうスキルやその度合い(~~年くらいやったら、~~くらいのレベルにはなっているだろう)、などが自動算出用の基礎スコアとして設定されています。

● ブラッシュアップやメンテナンスを迅速に継続させていくために、各指標をモジュール化。

● 能力診断の部分 (A~D) : SecBokをベースに組み立て。

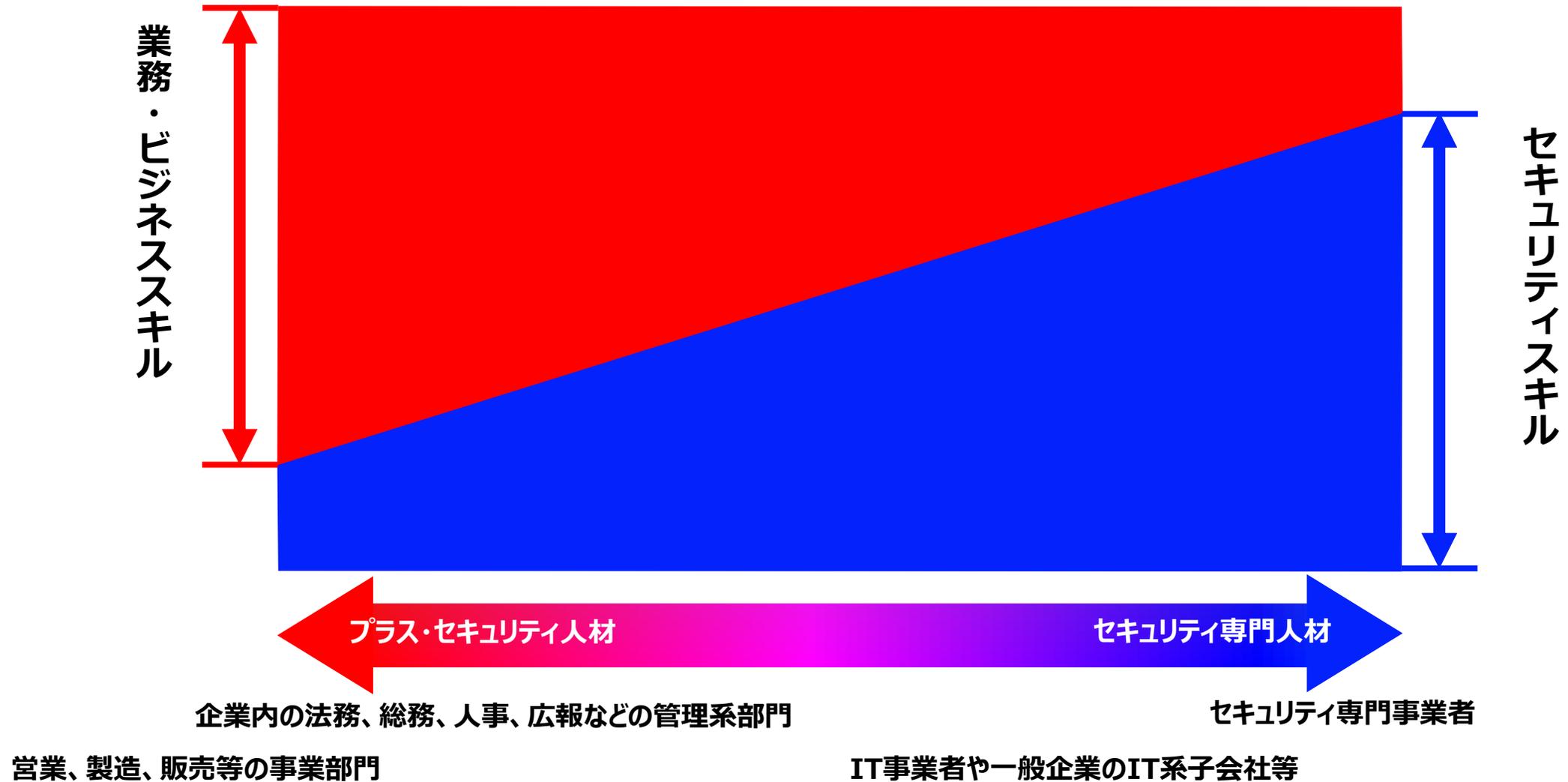
ビジネスやマネジメント系など不足する部分についてはiCD、ITSSから。

※技術要素だけに偏ることなく「仕事」という観点から広範囲のスキルについて指標を置き、なるべくきめ細かく対応できるように指標化。

● 適性資質・行動特性等診断の部分 (E~F)

※JTACパートナーのネクストエデュケーションシンク社 (<https://www.nextet.net/>) のコンピテンシーアセスメントを実施。

JTAGでのセキュリティ人材の「定義」は？



※VisuMeでは、この定義範囲の人材をスキル診断にて網羅できるようになってます。



スキル可視化のデモ

Capability Assessment for Digital Security (能力診断)

- VisuMeはIT全般のスキルについて可視化できるツールです。
その中で、セキュリティ側面についてさらに精度を上げるために強化された仕組み、構成になっています。
- テクニカル面だけでなくビジネス、マネジメント要素についても指標化されています。
「仕事」という観点でセキュリティ関係業務に限らず、広い範囲の人材に対して全体像を把握することに役立ちます。
- ITSSも使って組み立てされています。
すでに企業内でITSSで見える化にチャレンジしている方々にとっても親和性が高いものとなります。

VisuMeのスキル項目とアウトプット例ー 1

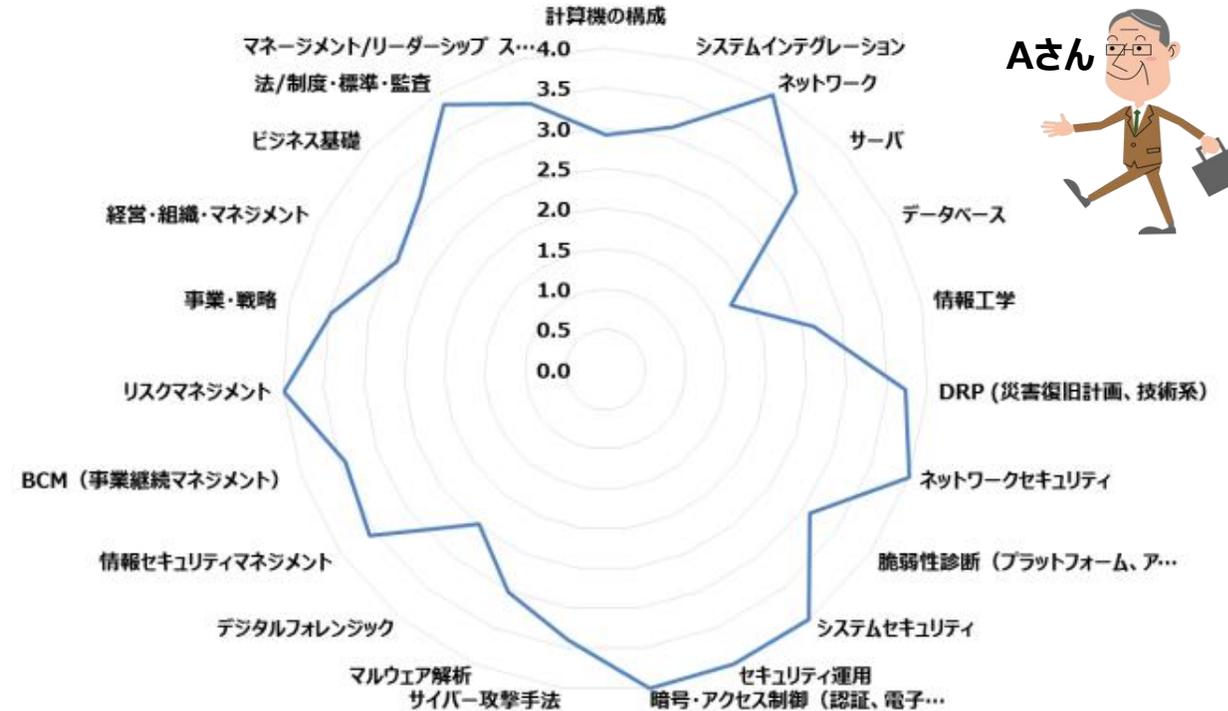
スキル指標 中項目 (94個)

Server 設計、開発 (対サイバー攻撃含む)
Storage設計、開発 (対サイバー攻撃含む)
Network設計、開発 (対サイバー攻撃含む)
Dataのバックアップ、計画、運営
構成情報管理、バックアップ
ネットワークセキュリティ基礎
ネットワークセキュリティ 解析
ネットワークセキュリティ 侵入検知
ネットワークセキュリティ アクセス制御
ネットワークセキュリティ 深層防御
ペネトレーションテストの基礎知識
ツール利用技術
システム、アプリケーションの脅威と脆弱性に関する知識
保護コンポーネント、ツールに関する知識
リバースエンジニアリング技術に関する知識
セキュアシステム設計に関する知識
セキュアプログラミングに関する知識
運用手法
製品知識
セキュリティシステムリスクマネジメント
インシデントハンドリングに関する知識
暗号
アクセス制御
サイバー攻撃基礎知識
マルウェア解析基礎知識
マルウェア解析手法
フォレンジック基礎

Capability Assessment スキル指標 大項目 (23個)

計算機の構成	2.9
システムインテグレーション	3.1
ネットワーク	4.0
サーバ	3.2
データベース	1.8
情報工学	2.6
DRP (災害復旧計画、技術系)	3.7
ネットワークセキュリティ	4.0
脆弱性診断 (プラットフォーム、アプリ等共通)	3.1
システムセキュリティ	4.0
セキュリティ運用	4.0
暗号・アクセス制御 (認証、電子署名等)	4.0
サイバー攻撃手法	3.4
マルウェア解析	3.0
デジタルフォレンジック	2.5
情報セキュリティマネジメント	3.6
BCM (事業継続マネジメント)	3.4
リスクマネジメント	4.0
事業・戦略	3.5
経営・組織・マネジメント	2.9
ビジネス基礎	3.1
法/制度・標準・監査	3.9
マネージメント/リーダーシップ スキル	3.4

- 23個の大項目は、94個の中項目から構成されている。
- スキル診断では中項目ごとに算出される



Aさんは “.....” という方” です。
上図のスキルレベルバランスを持っている人です。
 ○○○○という職種や役割りに対するのマッチング度は75%です。
 △△△△△という職種や役割りに対するのマッチング度は95%です。

総合点が高ければ、○○▽△の業務に対してハイパフォーマンスを上げることができる、という保証はない。
 業務や職務、役割ごとに必要とされるスキル種別、そのレベル感はずりである。少なくとも対象となるスキルレベルがマッチしていればハイパフォーマンスの可能性は高いはず。

VisuMeのスキル項目とアウトプット例ー 2

比較対象業務

JTAG設定サンプルプロファイルまたは、自社独自設定対象から選択し、診断結果比較ができます。(キーワード検索も可)

サイバー攻撃・調査 ▼

オペレーター・分析業務補助 ▼

あなたの評価点

選択した「比較対象業務」
サイバー攻撃・調査
オペレーター・分析業務補助

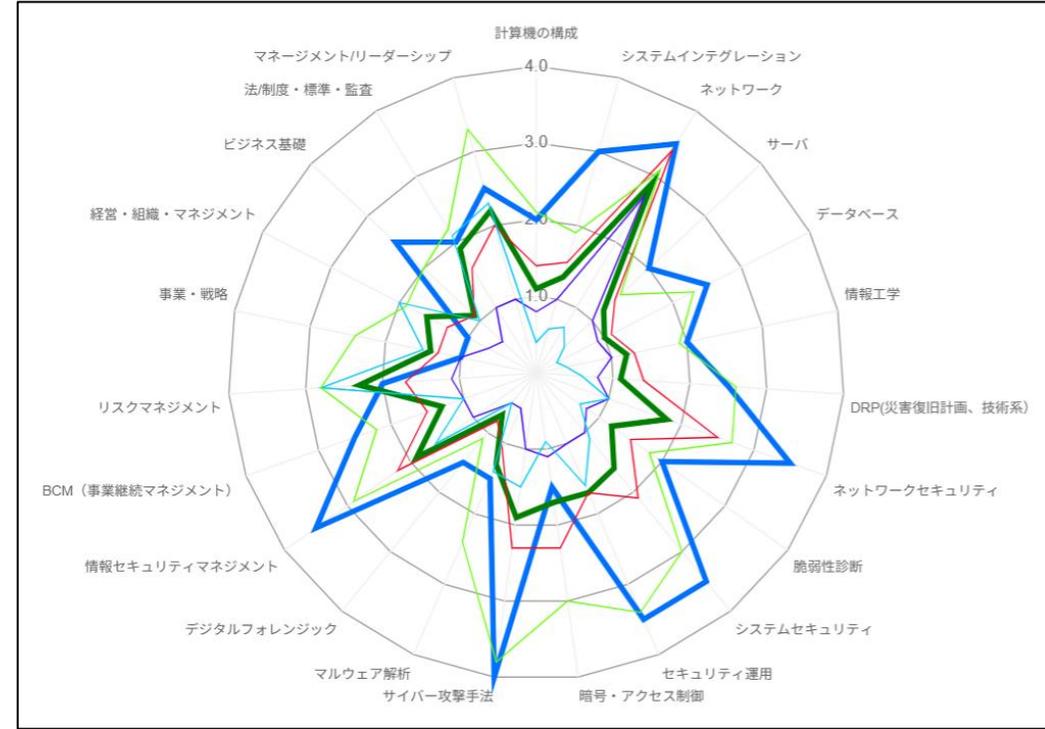
VisuMeには約150種類の業務や職種について、一般的、汎用的に整理した理想とするスキルレベルバランスが登録されています。選択した比較対象はリアルタイムでチャートに表示されます。

- 比較対象業務とのギャップがビジュアル的に把握できます。
- 比較対象業務はJTAGにてプリセットされたもの以外に、自社独自の業務や職務に対してのスコア設定ができます。
- よって、JTAG設定のサンプルプロファイルと比較するよりも、さらに具体的な育成計画立案の情報となります。教育も必要な人に、必要な研修を提供することで効果的な資金利用ができます(無駄を省く)
- 自社のキャリアパスを策定するためにも活用ができます。(自社の●●職務の理想モデルが定義できる)

比較対象業務	適合度
JTAG設定サンプルプロファイルまたは、自社独自設定対象から選択し、診断結果比較ができます。(キーワード検索も可)	合計スコア 53.9
経営 ▼	マッチ度 53.6 重要項目のみ %
CSO CISO ▼	マッチ度 64.6 重要項目+非重要 %

※適合度(マッチングの度合い)も出ます

■ グループアセスメント機能 (複数人を表示)
チームや組織づくり、採用時の参考情報、外部からのプロジェクト要員調達時のスキルミスマッチ排除、などへの利用ができます。



中央値

【チームSP】セキュリティチーム (CSIRT含む) Aタイプ - 5

※グラフの細線は比較したい複数人それぞれの診断結果グラフ
※上記以外に、平均値、最大値の表示もできます

VisuMeスキルレベルの定義

JTAG		ITSS
対象となる業務や役割、タスクに対して、該当するスキルがどのような状態（レベル）であることが求められるかを、ITSSのレベルに即して表現したもの。 （公開レポート：セキュリティ業務を担う人材のスキル可視化施策の考察 https://www.jnsa.org/isepa/images/outputs/JTAGreport2019.pdf ）		レベルを職種／専門分野横断的に捉えるための参考指標。人材像としての定義となる。 （ https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itss7.html ）
業界をリードし市場への影響力があるレベルにある	レベル7	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、社内外において、テクノロジーやメソドロジ、ビジネスを創造し、リードするレベル。市場全体から見ても、先進的なサービスの開拓や市場化をリードした経験と実績を有しており、 世界で通用するプレーヤ として認められます。
業界に貢献し認知されるレベルにある	レベル6	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、社内外において、テクノロジーやメソドロジ、ビジネスを創造し、リードするレベル。社内だけでなく市場においても、プロフェッショナルとして経験と実績を有しており、 国内のハイエンドプレーヤ として認められます。
所属団体・組織内で貢献し認知されるレベルにある	レベル5	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、社内においてテクノロジーやメソドロジ、ビジネスを創造し、リードするレベル。社内において、プロフェッショナルとして自他共に経験と実績を有しており、 企業内のハイエンドプレーヤ として認められます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 技術領域スキルについては非機能要件を考慮して最適化できる、最適解が出せる、定石外しができる。 ● 手法/方法については最適に使いこなせる、最適な手法を選択できる、状況に応じて自在に駆使している。 ● 関連するスキルについては上級管理者と議論ができる。 	レベル4	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、自らのスキルを活用することによって、独力で業務上の課題の発見と解決をリードするレベル。社内において、プロフェッショナルとして求められる経験の知識化とその応用（ 後進育成 ）に貢献しており、ハイレベルのプレーヤとして認められます。スキル開発においても自らのスキルの研鑽を継続することが求められます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 技術領域スキルについては機能要件を把握し、自立してある限定条件下で仕事ができる。 ● 手法/方法については最低限の使い分けができる、又は活用して結論を導いたことがある。 ● 関連知識領域については課題点について提案したことがある。 	レベル3	要求された作業を全て 独力で遂行します 。スキルの専門分野確立を目指し、プロフェッショナルとなるために必要な応用的知識・技能を有します。スキル開発においても自らのスキルの研鑽を継続することが求められます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 指導や指示があればそのスキルを使って業務がこなせる、そのスキルを活用できる。又は、スキルを必要とする業務について難易度は別にしてなんらかの経験がある 	レベル2	上位者の指導の下に、要求された作業を担当します 。プロフェッショナルとなるために必要な基本的知識・技能を有する。スキル開発においては、自らのキャリアパス実現に向けて積極的なスキルの研鑽が求められます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 技術、手法、方法など内容について講義などの受講や自己学習を通してどのようなものなのかを知っている、基本的な知識はある、概要は言える 	レベル1	情報技術に携わる者に 最低限必要な基礎知識を有します 。スキル開発においては、自らのキャリアパス実現に向けて積極的なスキルの研鑽が求められます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 内容についてほとんど知らない、知識がない。 	レベル0	

※VisuMeのスキルごとのスコア化は小数点以下の算出、設定ができる。（例えば、Webや雑誌、講演聴講などで一般的な知識は持っている場合、0.5とか）

※スキル診断時の入力による自動算出はレベル4まで。それ以上については、システムに自己修正機能があり、それを使って精度を上げておき記録として残す。